（４）春のふるさと探し

１　日　　時　　４月２８日（木）　９：００～１４：００
２　活動場所　　皆福寺、幸穂台グランド、津島神社　矢並川
３　活動内容　　住職さんのお話、ふれあいゲーム、草花観察やスケッチ、川の生物探し等
４　協 力 者　　講師：　　（皆福寺ご住職）
　　保護者ボランティア：　　（３名）
５　活動の様子

大型連休の前日、子供たちが毎年楽しみにしている「春のふるさと探し」を行った。訪問先は４か所で、縦割りグループのわくファミ班で活動計画を立て、順に訪れた。新緑の木々に囲まれた道や、幅の狭い道を通るため、時には自然の息吹を感じたり、時には車の通行に気をつけたりと、子供たちはふるさとの散歩を楽しんだ。

今年は天候もよく、３年ぶりに矢並川での川遊びを実施することができた。子供たちは川に入り、水遊びをしたり、網で生き物を探したりと、楽しく活動することができた。ボランティアの方には、川での事故がないように見守っていただいた。また、川の近くにある津島神社では、観察した草花をスケッチをした。名前の分からない草花は、用意してきた図鑑で調べるなど地域の自然環境に親しむ活動を実施した。

幸穂台のグランドでは、鬼ごっこやドッジボールをして、班の絆を深める活動を行った。午後から訪れた班は、日差しが出てきたため、汗をかきながらも、休憩用に張られたテントでお茶を飲んだり、友達と話をしたりして一休みした。

「春のふるさと探し」では、毎年、皆福寺を訪問し、ご住職様からお寺に関するお話をしていただいている。今回は、お寺にかかわる動物や植物のことを、クイズ形式でお話していただいた。クイズは５問あり、子供たちは実際に本堂や屋根を見ながら、問題にあった動物や植物を楽しく探すことができた。

お寺の本堂に龍がいるのは、今から約２５００年前、お釈迦様が生まれた時、７歩歩んで、「天上天下唯我独尊」と言葉を発するとともに、九匹の龍が甘い雨を降らせ、その後、龍がお釈迦様をずっと守ったことからお寺にいるとのことであった。また、この時の甘い雨を、甘茶として、お釈迦様の誕生日にそれを像にかけ、お祝いしていくことが、信仰の表れになるとのことであった。

次に、本堂の上にいるライオンについては、誰が相手でも怯えることなく、正しいことをいう勇気ある動物であるため、お寺を守る生き物であったが、そのライオンでも、自身にとりつく虫だけは恐れているため、夜になると牡丹の下で休み、牡丹から滴り落ちる夜露で虫を退治してもらうことで、身が守られるとのことであった。

その他、阿弥陀様が蓮の上に立っているのは、蓮の花は澄んだ水からは咲くことがなく、濁った水の中で咲くため、煩悩の中であっても、それに染まらず悟りをひらく仏様である

ことを表しているとのこと。また、燭台の鶴と亀が三途の川を渡るとき、蝋燭の火が消えないように協力したこと、悪夢を食べる獏のこと等、お寺にはさまざまな動物がいたり、植物が植わっていたりするが、すべて私たちが健やかに生活できるよう見守ってくれていることを話していただいた。

　最後に、子供たちは、お釈迦様の像に甘茶をかけ、４月８日の花祭りの感触を味わわせていただいた。

　保護者ボランティア３名の方には、一日中、子どもたちと一緒に歩き、引率補助をしていただいた。目的地までの行き帰りでは、自動車等の通行があり、そのたびごとに交通安全に気を配っていただいき、目的地では、児童の活動を見守っていただいた。おかげで、事故もなく、安全で楽しい活動を行うことができた。

　活動終了後、それぞれの班は、体育館で振り返りを行った。リーダーを中心に、全員が順に、今日のふるさと探しで気がついたことや、心に残ったことを発表した。一人一人が感想を述べた後、皆で拍手をし、お互いの活動を称えた。

　「春のふるさと探し」は、木々の新緑や鳥の声、川のせせらぎ等を、五感を使って感じながら、ふるさとである幸海地区の春を探し歩き、この地に生きる人々の生業を感じ取ると共に、地区への愛着を抱くことを願い、異学年交流活動として毎年行っている。そして、この活動は、学年ごとに行う生活科、総合的な学習「秋のふるさとウォーク」「ＷＥＬＯＶＥ　幸海」へとつながっていく。